

第2回小林市議会高校生議会 会議録

日 時

令和8年2月3日（火曜日） 午前9時00分～午前11時15分

場 所

小林市議会議場

出席議員（高校生）

小林高等学校	小堀 正志朗 議員	小林秀峰高等学校	八重尾 彩織美 議員	小林西高等学校	中原 亜莉寿 議員
	小屋敷 哩仁 議員		上田 愛海 議員		藤田 杏珠 議員
	吉藺 雄介 議員		國本 綾音 議員		假屋 結斗 議員
	深見 美奈 議員		湯舟 広翔 議員		川畑 健瑛 議員
	上田 彩絢 議員		榎窪 千紘 議員		
	ほか 1名		戸高 庵湊 議員		

欠席議員（高校生）

小林西高等学校	岡原 陽生 議員
小林西高等学校	上原 果歩 議員

出席議員（市議会）

司会・ 広報広聴委員長	堀 研二郎	議員	有木 将吾
議長	舞田 重治	議員	押領司 剛
副議長	貴嶋 憲太郎	議員	前田 隆博
議員	小川 真	議員	竹内 龍一郎
議員	能勢 誠	議員	吉藤 洋子
議員	野田 利典	議員	原 勝信
議員	松嶺 勇一	議員	鎌田 豊数
議員	橋本 律子	議員	大迫 みどり
議員	永野 雅己	議員	高野 良文
議員	金松 勲		

議会事務局出席者

事務局長	松元 総子
主幹	四元 祥子
主幹	高原 隆一郎
主幹	境田 一寿
書記	入木 真由美
書記	永久井 龍汰

来賓

宮原 義久 小林市長
大山 和彦 小林市教育長

2月3日(火) 9時00分 開始

～オリエンテーション～

堀研二郎広報広聴委員長 皆さん、おはようございます。定刻となりましたので、ただいまより第2回小林市議会高校生議会を始めさせていただきます。本日、司会進行を務めます広報広聴委員長の堀研二郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。まず初めに、主催者を代表し、小林市議会議長舞田重治より挨拶申し上げます。

舞田重治議長 皆さん、おはようございます。小林市議会議長の舞田重治でございます。本日は、市内3つの高等学校から小林市議会にお越しいただき、誠にありがとうございます。また、今回の開催を快く受け入れていただき、ご協力いただいた学校関係者の皆様方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

さて、本日は昨年に引き続き、高校生による一般質問形式での模擬議会第2回小林議会高校生議会を開催します。この高校生議会は、国や自分の暮らす地域の問題を自分たちの問題と捉え、解決策等を検討し、政治に反映させる議会の仕組みを学び、体験してもらうことで高校生の政治に対する興味、関心、政治への参加意識の醸成につなげるとともに、高校生との交流による議員の新たな政策発見や、主権者教育推進の機運の向上につなげることを目的としており、昨年8月の高校生議会事前学習会から準備や打ち合わせを重ね、本日の実施に至ったところです。本日は、各高校から1名ずつ議長を選出し、交代でその役職を担い、小林市議会の一般質問の形式に沿って、高校生の皆さんがそれぞれのチームで考えて質問を行い、それに市議会議員が答弁する形となります。6つのチームが高校生の視点で捉えた本市の課題や、本市をより良くするための提案を非常に楽しみにしています。

また、この議場に高校生議員として来られ

た将来有望な高校生18名と、このような場を設けられたことは私たち議員にとりましても、今後の市政発展につなげるよい機会となるものと期待しております。限られた時間ではありますが、この高校生議会の取り組みが皆様にとって実のあるものとなりますようお願いましてご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。令和8年2月3日小林市議会議長舞田重治。以上でございます。よろしくお願いいたします。

堀研二郎広報広聴委員長 ありがとうございます。

次に、来賓を代表して、小林市長、宮原義久様からご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

宮原義久市長 皆さんおはようございます。第2回小林市議会高校生議会の開催にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、市内3つの高等学校から16名の皆さんが参加しておられるということで、大変嬉しく思います。ありがとうございます。皆様ご承知のとおり、衆議院議員総選挙が1月27日に公示され、8日が投開票となっております。皆さんも、18歳を迎えると、国や地方公共団体の代表者を選挙で選ぶ選挙権が付与されます。昨年7月に行われた参議院議員選挙の投票率は58.51%で、前回の同じ選挙より、6ポイント程度上昇いたしました。しかしながら、若い世代、特に18歳、19歳の投票率は41.74%にとどまり、若者の選挙離れや政治に対する関心の低下が顕著となっております。

このような中、未来を担う高校生の皆さんが、自分の住むまちについて真剣に考え、意見を述べるこのような機会が設けられたことは、市政運営を担う我々にとっても大変貴重な機会であり、また、高校生の皆さんにとっては、輝かしい将来への第一歩に繋がる意義ある体験となることと思います。皆さんが思い描く小林市の未来について、それぞれの考

えや思いをお聞かせください。議場というなれない場で緊張されるかもしれませんが、落ち着いて挑んでください。

大変硬い話をしましたが、6つのですね、テーマに沿って昨年と趣向を変えて、グループでの質問になるというふうに聞いております。昨年もですね非常に、すばらしい質問をしていただいて、いい議会になったんではないかなというふうに思っているところではありますが、本当は、あと2人ほど参加があったようですが、体調不良ということで、インフルエンザ等も流行っているのではないかなと思いますので、これからですね、皆さんたちも、寒い冬を乗り切っていただくためにはやっぱり体調管理をしっかりとしていただきたいなと思います。

小林市では健幸ポイント事業というのをやっていて、ウォーキングをすることで、健康づくりをですね、増進しようということで今進めております。6年7年になるんですが、今年は2000名を超える方に参加いただいて、私も毎日歩いてるんですけど、今、200番ぐらいですかね、2000人中ですよ。だから1日1万歩歩いたときが大体、400番ぐらいになるのかなというふうに思っていますが、若い皆さんですから毎日歩き回っているというふうに思いますが、やっぱり1万歩歩くというのはなかなか大変ですので、ぜひですね、ちょこちょこでいいですので、1万歩目標にさせていただけるといいなというふうに思っているところでもあります。

非常にですね、いい企画だというふうに思っておりますが、言われたようにですね、私自身も若い皆さんの前だと緊張しますが、皆さんたちも緊張されると思いますけど、自分の思うことですね、率直に話をさせていただくといかなというふうに思います。一番最初の方が緊張されると思いますが、最初の方頑張ってください。最初の方が頑張ってくると、次の方は非常にやりやすくなるというふ

うに思いますので、また最後の方も緊張するんですよ。だからその辺りもですね、今日は緊張というよりは、楽しい議会にさせていただけるとありがたいなと思います。

結びになりますが、本日の開催にあたり、学校関係者の皆様のご協力に敬意を表しますとともに、高校生議会の成功を祈念して、挨拶とさせていただきます。

最後まで聞きたいところなんですが、すみませんね、こういう私みたいな市長という仕事は、30分刻みで仕事が入らせていただいてまして、この後30分刻みで公務をこなすということになりますので、皆さんの今日の意見ですね、いろいろ聞けないところであるんですが、後からですね、どういった状況だったかということをお聞かせいただきたいと思います。今日は皆様方ですね、素晴らしい意見を期待いたします。ありがとうございます。

堀研二郎広報広聴委員長 ありがとうございます。ありがとうございました。

ただいま御挨拶いただきました、宮原市長のほか、本日は、小林市教育長大山和彦様もご臨席いただいております。一言ご挨拶をお願いいたします。

大山和彦教育長 皆さんおはようございます。教育長の大山でございます。今日はですね、小林市や西諸出身の皆さんがですね、日頃どんなことを考えてるのか、また小林の未来をどう思い描いているのかをですね、聞かさせていただくということで楽しみに参りました。これからの教育委員会の取組にもですね、反映をしていきたいというふうに思いますので、今日はどうぞよろしくお願ひします。

堀研二郎広報広聴委員長 公務ご多忙の中、誠にありがとうございます。市長及び教育長におかれましては、時間の許す限り、傍聴席にて傍聴いただけるということですので、よろしくお願ひします。

それでは、開会までしばらくお待ちくださ

い。

～開会・一般質問～

舞田重治議長 ただいまから、第2回小林市議会高校生議会の会議に入ります。

まず、高校生議長選出となっておりますが、本日出席の高校生議員の中から、議長役3名をあらかじめ選出しております。

議長役は

小林高等学校 吉藺雄介 議員

小林秀峰高等学校 湯舟広翔 議員

小林西高等学校 川畑健瑛 議員

以上であります。

これから議長役3名の選出について採決します。この採決は起立によって行います。議長役3名を選出することに賛成の議員の起立を求めます。

(全員起立)

全員起立であります。

従って、議長役3名を選出することに決しました。

それでは、高校生議長と交代します。

川畑健瑛議長、議長席にお着きを願います。

～議長交代～

川畑健瑛議長 議長に就任しました小林西高等学校、川畑健瑛です。よろしくお願ひします。

これから第2回小林市議会高校生議会を開会します。

ただいまの出席議員は16人。

定足数に達しましたので、これから直ちに本日の会議を開きます。

本日の会議は、議席に配付してあります会次第によって進めることにします。

日程第1、議席の指定を行います。

議席については、会議規則第4条第1項の規定により、議長において指定します。

議席の番号と氏名を、事務局長に朗読させます。

事務局長。

永久井龍汰事務局長 それでは、朗読いたします。

1番 八重尾 彩織美 議員

2番 上田 愛海 議員

3番 國本 綾音 議員

4番 上田 彩絢 議員

5番 湯舟 広翔 議員

6番 榎窪 千紘 議員

7番 戸高 庵湊 議員

8番 小堀 正志朗 議員

9番 小屋敷 哩仁 議員

10番 吉藺 雄介 議員

11番 議員

12番 深見 美奈 議員

13番 中原 亜莉寿 議員

14番 上原 果歩 議員、本日は欠席となっております。

15番 藤田 杏珠 議員

16番 岡原 陽生 議員、本日は欠席となっております。

17番 假屋 結斗 議員

18番 川畑 健瑛 議員

以上であります。

川畑健瑛議長 ただいま朗読しましたとおり議席を指定します。

日程第2、会期の決定を議題とします。

第2回小林市議会高校生議会の会期は本日1日間にしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

川畑健瑛議長 異議なしと認めます。

従って、会期は本日1日間と決定しました。

日程第3、市政に対する一般質問を行います。

本日の質問者は16人であります。

順次発言を許します。

まず、小林高等学校チームアクエリ、深見

美奈議員、ほか1名の発言を許します。

チーム アクエリ おはようございます。

小林高校アクエリチームです。

私たちは、小林市を田舎な都会にするための地域づくりが大事だと考えています。

田舎な都会とは、自然の魅力を生かしながら、人を呼び込み、商工業や文化的設備を充実させた都市のことです。これは小林市にある高原や川などの自然を強みとして、地域の活性化を進めることで叶えられる考えます。そこで3点お伺いします。

1点目は、子どもが安心して遊べる川の整備についてです。私たちは、今までたくさん自然と触れ合ってきました。例えば、須木の河川プールに須木出身の友達とよく遊びに行ったりもしました。

しかし、高校生になると、なかなか須木まで足が伸びないという現状があります。もっと身近な川が須木のように整備されれば、気軽にたくさんの思い出を作れると考えます。

また、沖縄で山や川などの自然に囲まれた場所で家族と釣りなどをして遊んだ経験があるのですが、とても綺麗で、静かで、素敵な場所であったことを覚えています。

そこで、小林市でも、豊かな自然を利用して、市民だけでなく、観光客の心にも残るようなスポットを作ると良いと考えます。河川を活用するためには、浅く流れの緩やかな川を夏のレジャーとして整備することが必要になってくると感じています。先端の鋭い石や川の水質、川の中やその周辺のごみなどを改善して、かつてのように、子どもも安心して遊べる川を取り戻して、誰もが安心して利用できる環境整備を求めます。水鉄砲遊びや簡易キャンプを実施し、出店でキャンプ用品やプール用品も販売し、地域商工業の振興を図ります。こうした川の再整備について、市の見解を伺いたいです。

2点目は、生駒高原を夜に活用することです。例えば、小林市の最大の観光地である生

駒高原で夏に会場の明かりを抑えた夜間イベントを実施することはいかがでしょうか。

これは、小林市の魅力である星空を楽しんでいただくためであり、天体観測パーティーや花火を主とし、出店なども呼んで行くと良いものになると思います。私たち高校生のような若い世代は、夜のイベントがあると、参加したくなります。実際、小林市の冬祭りにはたくさんの中・高生が集まりました。そのため、チラシ等で周知し、多くの来場が期待できます。市として、夜間イベントの実施をどう考えているかお聞きします。

3点目は、展望台を学校行事で活用することについてです。展望台は景色がよいので、広報戦略として宿泊学習や遠足の立ち寄り場所として学校に提案すると、子どもから家族へと認知を広げることができます。これにより、利用者数の増加を得られると思います。学校行事への活用について、市のお考えを伺います。

以上の取り組みを通じて、自然と都市が調和した魅力ある地域づくりを進めて欲しいと思いますが、現状や今後の方針の見解をお聞きします。

高野良文議員 貴重な質問、提案本当にありがとうございます。私は1点目についてですね、答弁をいたしたいと思います。

まず、子どもが安心して遊べる川の整備についてですが、自然と触れ合う環境は、地域活性化にも寄与して、有意義な提案だと思っております。

一方で、安全性や水質管理、関係機関との調整が不可欠であることから、危険箇所の把握を行い、利用が見込める場所の選定から始めて、再整備を検討する必要があると考えております。

私からは以上であります。

橋本律子議員 2点目と3点目については私から答弁いたします。

まず、生駒高原の夜間の活用についての提

案についてです。

星空とか夜景といった強みを生かした夜間イベントは、新たなにぎわいの創出に繋がる可能性があります。安全対策や交通の確保を含め、生駒高原花の駅、それから生駒高原活性化プロジェクト。そういった関係団体と協議をしながら検討して参ります。

現在、生駒高原花の駅では、春には花フェスタ、秋にはコスモスマつりを開催して、期間内に花火大会を行うなど、多くのイベントを実施して、多くの観光客で賑わっているところです。

また、生駒高原活性化プロジェクトは、地域内の18の事業所からなる異業種事業者有志の組織であります。生駒地区内の観光の発展、経済の向上を図ることを目的に、令和6年に発足されています。これまでも観光マップを作ったり、いこプロマルシェなどの事業を展開されていまして、今後も生駒地区の活性化に繋がる事業を企画されると伺っております。これらの関係団体の方々と協議しながら、チームアクエリさんからの提案について検討して参ります。

次に3点目の展望台の学校行事での活用についてでございますが、まず現状ですけれども、展望台、北きりしまコスモドームは教育科的な価値が高く、市の魅力を伝える効果も期待できる施設として、平成6年に建設されました。その後、利用者が減少したり、施設が老朽化したり、また、近年のICT教育が普及したことで、それを活用することで、大型施設がなくても、教育的効果がある事業が可能になったというような理由から、令和2年から現在は休館をしている状況です。

しかしながら、展望台に限らず生駒地区全体を宿泊学習や遠足の立ち寄り場所として学校に提案していくということは大切なことであり、検討していく必要があると考えています。

いずれの提案も若い世代の視点から、本市

の将来を見据えた極めて示唆に富む意見であり、議会としても、当局に対し課題の整理を進めながら、チームアクエリさんの3つの提案について、前向きな検討を求めて参ります。

以上で答弁といたします。

チーム アクエリ 先ほどの答弁にありました、生駒地区の活性化に繋がる事業について、小林市の若い世代の参加を促進するために、中・高生ボランティアの導入をご検討いただきたいと考えております。私たち高校生は、地元の祭りに積極的に参加したいと考えています。それは単に楽しむためだけではなく、ボランティアとして、地域の役に立ちたいという思いがあるからです。

そこで、中・高生ボランティアの募集について、市の見解をお聞かせください。

永野雅己議員 質問ありがとうございます。今のご質問について答弁させていただきます。生駒高原のイベントに高校生や中学生の皆さんが参加することは、地域を元気にすることや、将来の人材を育てることに繋がるとも大切な取組だと考えます。

生駒高原はご存じのように昭和38年に、宮崎交通の創業者、岩切章太郎さんの考えで花を植えて、観光地として整えられた場所です。

自然の美しさを生かして、多くの人に来てもらうことを目的に発展してきました。

現在進められている生駒高原活性化プロジェクト、通称いこプロでは、その会長さんの意向としては、高校生の皆さんに、アイデアや感じ方を大切にして、イベントを考える最初の段階からですね、一緒に取り組みたいとの強い思いを持っていらっしゃいます。市としては、生駒高原のイベントだけではなく、秋祭りなど、市が関わるいろいろなイベントに若い世代の皆さんにもボランティアとして参加して欲しいと考えております。

今後は、安全面に十分配慮しながら、若い世代の皆さんが地域づくりに主体的に参加で

きる仕組みづくりを進めるとともに、市議会としましても、生駒高原や小林市を若い世代の皆さんとともに盛り上げていきたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

チーム アクエリ 先ほどICTの活用により、実際に足を運んで学習する必要がなくなったとおっしゃっていたと思うのですが、そのような中で、実際に足を運んで学習することについて、どう考えているのかお聞きしたいです。

また、現在、実際に行っているICTを活用した学習についてもお聞きしたいです。回答をお願いします。

永野雅己議員 ご質問ありがとうございます。今のご質問に対してはですね、実際に現地に足を運び、見て、触れて感じながら学ぶ体験学習は、理解を深める上で重要であり、仲間と協力して学ぶことで、教室内の学習では、得られない学びがあると考えております。

一方ですね、ICT活用により、オンライン学習や遠隔授業など、場所にとらわれない学習の機会も広がってきております。聞くところによりますと、現在、学校現場では、中学生が小学生に行う読み聞かせ、海外の学校との交流、家庭でのオンライン学習、キャリア教育に関する講演会、未来予想図発表会などがICT活用として実施されております。

市議会としましては、学習の目的や内容に応じて、ICTを活用した学習と、実際に体験する学習のそれぞれ特徴を生かし、両者を適切に組み合わせた学びを進めることが重要だと考えております。

以上、答弁を終わります。

チーム アクエリ 本日は貴重な答弁ありがとうございます。

私たちの提案は、本当に市のためになるのかという不安がありました。議員の方の答弁を聞いて、少しでも自信を持つことができました。少しでも、私たちの提案が、この小

林市のためになることを思っています。

今日は本当にありがとうございました。

川畑健瑛議長 以上でチームアクエリの一般質問を終わります。

次に、小林高等学校チームVR男子、小堀正志朗議員、小屋敷哩仁議員、吉藺雄介議員の発言を許します。

チーム VR男子 こんにちは。僕たちは小林市のさらなる発展のために、バーチャル移住×リモートまちおこしプロジェクトというものを考えました。このプロジェクトの最終目標は、小林市に住んでもらう人を増やすことが目標ですが、その前段階である小林市を知ってもらうことにフォーカスを当てたものです。そのため、VRを使って小林市の暮らしを再現することがこのプロジェクトの内容です。

具体的には、VRでの景色、町並みを再現し、歩きや公共交通機関を使った移動などをすることがこの企画の土台となります。この土台から発展して小林市の農業、産業、その他いろいろな仕事の体験、行事、祭り等の再現、特産物の購入などを行えると、より小林市を知ってもらえ、市が活性化すると考えています。

そして、実際に僕たちは、12月6日に小林市市民活動支援センターで行われた体験フェスでVR体験をし、そのVRを作った人に話を聞きました。スマホやパソコンからでも、このプロジェクトに参加できること、誰が何をVRで見たのか、購入したのかなどを1つのパソコンでも把握が可能であることなど、たくさんのことを教えてもらいました。

そして、これからお話しする全ての内容は、VRで再現可能だと教えてもらいました。

では、まず、なぜ都会に住む人が田舎に住まないのか。それはインフラ、仕事、雇用キャリアの中断など、経済的なもの、人間関係などがあります。それを細かく再現し、田舎暮らしの心理的ハードルを下げる。そし

て、住んでももらえないとしても、交流数をふやすことで、都会の人が関心を持ち、他の人に広め、観光として行ってみるなど、経済的な効果も期待できます。

さらに、VR内での小林市の特産物の購入など、収益化を行うことで、小林市の収入の増加、農業の活性化、小林市内にある店舗等の活性化などが期待できます。

また、地域の方との団結力も醸成することができ、近代技術であるVRを使うことにより、若者の興味を引くことができます。住んでもらうところまでできたなら、人手不足の解消、市内の税を使ったサービスの環境が整うことで、さらに人が来るようになる循環的な社会にすることができます。

以上の取り組みを通じて、都会の人を巻き込んだ、循環型社会を目指していきたいです。以上です。

舞田重治議員 VR男子の質問にお答えいたします。今回ご提案いただいたバーチャル移住×リモートまちおこしプロジェクトは、これからの地域づくりにおいて、大変示唆に富むものであり、小林市の未来を真剣に考えてくださっていることに感動いたしました。ご説明の通り、このプロジェクトの最終的な目標は、小林市に興味を持ち、将来住んでいただける方をふやしていくということであり、その第一歩として、小林市の暮らしを知ってもらうことに着目し、VRという先端技術を活用して、市内の風景や、農業、畜産、伝統行事などを体験できる仕組みを構築するという視点は大変新しく、可能性に満ちた提案であると感じています。

また、皆さん自身がVR体験を行い、その作成者から、仕組みを丁寧に学び、実現性を確かめながら企画を深めてこられた点も非常に頼もしく思います。スマートフォンやパソコンから参加できる利便性、体験データを一元管理できる仕組み、特産品の購入などの収益化まで視野に入れられて、まさにデジタル

時代のまちおこしのモデルとなりうるものです。デジタル技術を活用した取り組みは、今後、取り入れるべき技術として重要であると考えます。

今回、いただいた提案は、本市の将来に希望を与える大変有意義なものだと受けとめています。

歴史を振り返ってみても、古代文明が滅びたのは、ほとんど自然災害による食糧不足であります。近年、国内においても、農業や食料安全保障に対する関心も高まりつつあり、昨年、全国で43万人もの若者が農業再興に関する問い合わせがあったとされています。後継者のいない農家の住宅、農業施設等を活用した初期投資の少ない新規就農も提案できるのではないかと思います。今年から始まる地方創生事業2.0では、より実効性の高い稼ぐ力の強化や、デジタル化の実装に焦点を当てられています。議会としても、各種議長会の要望活動や、各省庁の関係部局との意見交換を通じ、強く要望して参りたいと思います。ご提案の取組は、高齢化や過疎化による地方の生活基盤の脆弱化に対処し、安心して暮らせる環境を作り出す役割も担っていると思います。今後、具体的な導入の可能性のあり方を経済産業委員会並びに担当部署でしっかり検討しながら、皆さんとともに小林市の未来を切り開いていければと考えております。

私の方からは以上でございます。

チーム VR男子 答弁ありがとうございます。近年デジタル技術の発展は目覚ましく、その中でもVRは観光、教育、防災、産業など、様々な分野で活用が進んでいる技術の一つであると考えています。全国の自治体においても、地域の魅力発信や人材育成、体験型の学習などにVRを取り入れる動きが見られます。そこで質問いたします。現在、小林市において、どの程度活用、検討が進んでいるのか、現状についてお聞かせください。

鎌田豊数議員 お答えします。まず、小林市

の公の施設に常設している機器はございません。

現在、地方創生課が行っている東京大学先端科学技術研究センターとの連携協定等に基づく事業で、VRゴーグルを活用しております。市民や団体への貸し出しは行っていません。事業の中で、観光PRや福祉、教育分野などで積極的に活用しております。例えば、観光PR動画、ンダモシタン小林を360度、VR映像としてリメイクし公開いたしました。霧島連山の雄大な自然や、市内の観光スポットを仮想的に体験できます。

また、VRコンテンツ作成を通じた若者の地域再開発を目的に、秀峰高校などで、VRの使用方法や、VRコンテンツ制作の授業を行っております。私もこの授業を一度傍聴いたしました。VRゴーグルでの体験もしまして、立体的な映像は見ることができ、大変感動的でした。高校生が作成した観光VRコンテンツを活用して、地元の高齢者施設で、VR旅行体験を実施し、世代間交流を図っております。

以上です。

チーム VR男子 答弁ありがとうございました。

もう1つ質問があります。VRは実際にその場に行かなくても体験できるという特性から、若者や市外、県外の方々に、小林市の魅力を伝える手段としても大きな可能性を秘めていると考えます。

また、教育現場や防災においても、新たな学びや、意識向上に繋がることも期待できます。そこで質問いたします。今後、小林市がVR技術を活用していくことによって、どのような分野において、どのような効果や成果が期待できますか。

堀 研二郎議員 私からは、VRの活用について、そしてその効果についての質問についてお答えいたします。

まず初めにですね、このVRについてVR

男子、しっかり勉強されて、チームで話し合っ、非常に素晴らしいなと感じたところでございます。

小林市では、令和8年度まで国の交付金を活用した事業を実施していく予定です。皆さんが考えられているように、各産業、教育であったり、医療福祉、観光、エンタメなど、幅広い分野で活用されることが期待されます。

しかし、令和9年度以降の取組はまだ未定であります。課題として、魅力のある小林市ですが、もともと、体験したいと思わせる魅力あるVRコンテンツの作成、専用のデバイスや通信環境の整備がより一層不可欠となります。

しかし、場所や時間、このような制限を受けず、サービスを提供できることから、新たな年齢層や、これまでPRが届かなかった部分までの新たな関係交流人口を構築することが期待できます。また、VRのコンテンツを、1度作成すれば、そのあと何度も活用することができます。研修やイベントにかかる会場費や、人件費といったコストの削減に繋がることや、データの蓄積、分析が正確に、早く行うことができます。そのことは、次の一手に、迅速に対応することができる、そういったところが期待できます。

私個人もですね、このVR技術、非常に興味があるところでございます。先進地の取組を、私自身もしっかり調査研究して参ります。VRコンテンツによる、リモート町おこしが小林市の武器の1つとなるように、私も頑張っ参ります。

以上、答弁です。

チーム VR男子 今回は貴重な答弁、このような機会をいただき貴重な経験になりました。

本当にありがとうございました。僕たちの案が小林市の発展に繋がることを楽しみにしています。

本日は本当にありがとうございました。

川畑健瑛議長 以上で、チームVR男子の一般質問は終わります。

ここで、10分程度休憩をします。

午前9時50分 休憩

～議長交代～

午前10時00分 再開

湯舟広翔議長 休憩前に引き続き会議を開きます。ここからは、私、小林秀峰高等学校、湯舟広翔が議長を務めます。よろしく申し上げます。

次に、小林西高等学校、チームノーズ、岡原陽生議員、本日は欠席です。假屋結斗議員、川畑健瑛議員の発言を許します。

チーム ノーズ こんにちは。私たちは、小林市の医療について考えました。理由は、小林市の医療が充実すれば、人口も増え、それとともに財源も増え、豊かな町になると思ったからです。

まず初めに、医療の無償化についてです。その理由は、まず現在、小林市では医療費の自己負担が少なくなっています。それもすぐ助かるのですが、えびの市のように無償化した方が市民の負担も少なくなり、病院に行きやすくなると思ったからです。

次に、夜間医療の充実です。現在、夜間に受け入れられるのは、救急など重病患者が多いと思います。ですが、やはり小さい子供や老人の方となると、急に体調が悪くなるものが多くて、どうしても夜病院に行かないといけない状況になることが少なからずあることと思います。そんなとき、夜間医療が充実すれば重病化する前に病院に行けるので助かる方が多いと思います。

最後に、産婦人科の充実です。現在、小林市では出産ができないので、宮崎市や都城市へ出産するために行く人が多いのですが、小林市で産婦人科が充実すれば、妊婦さんの負担も少なくなり安心して暮らせると思います。

そうなることで、人口も徐々に増えて、小林市で暮らす人も増えると思います。

いかがお考えですか。

野田利典議員 ご質問ありがとうございます。假屋結斗議員、川畑健瑛議員のご質問にお答えいたします。

まず、医療費の無償化についてでございますが、物価高騰により家庭生活も大変経済的に厳しいところであります。そこで、児童・生徒の医療費の無償化についてのご質問であります。

当市では、子供の医療費助成制度として、未就学児は1診療当たり350円、小・中学生は1診療当たり800円の負担となっております。子育て支援の重要な施策として取り組んでいますが、これを高校生まで無償化した例として、えびの市では対象者が約1500人を想定し、予算額6400万円の財源確保がされ実施の運びとなりました。小林市の子ども医療の対象の中学生以下の人口は約4700人でございます。中学生まで無償化した場合の医療費は約1億6000万円の財政負担が生じるということでございます。今後も、医療費補助の財源確保を国や県に対して医療費助成制度の拡充に向けた要望活動を継続していきたいと考えております。

続きまして、夜間医療の充実についてお答えいたします。夜間の医療体制については、日中の平日に比べて、受入医療機関数などが格段に減少しますので、日頃から市民の皆様には、健康の重要性や維持管理、平日日中の受診を呼びかけしているところでございます。それでも、急病は日時や場所を問いませんので、現在、西諸医師会の協力を得て休日夜間の急病診療体制を整備しております。西諸は県内においても医師数が少なく、状況によっては他の自治体の夜間救急病院を受診せざるを得ないのが現状でございます。ただ、小児患者の保護者の不安軽減や、適切な受診を目的として宮崎県が設置いたしました小児救急

医療電話相談#8000番にご連絡いただきますよう体制が整っております。今後、西諸地域の医療体制の充実、並びに体制の維持を国や県に働きかけて参ります。

続きまして、産婦人科の設置についてでございますが、これについては、小林市では小林市立病院で平成31年1月から令和3年12月まで、病院協力のもと、産婦人科医1人体制で出産ができていました。その後、再度休診し、産婦人科医が不在でございます。産婦人科を再開するには、複数の常勤医師を確保することが必要でございます。

また、切開術では、麻酔科医や小児科医などの医師の確保も求められます。医師確保のためには、宮崎県や関連大学と継続した協議を進めて参ります。現在、妊婦健診審査や出産サポート119事業、産後ケア事業などを実施し、安心して出産、子育てができる環境づくりのため拡充を進めているところでございます。

私からは以上でございます。

チーム ノーズ ご答弁ありがとうございます。私たち若い世代が将来安心して出産や子育てができるために、夜間医療や産婦人科についてえびの市などの連携だけでなく、市町村以外の都城市や宮崎市などの広域連携の考えを伺いたいです。

竹内龍一郎議員 それではお答えいたします。ただいまありました医療の関係、市民の安心、安全を得るという観点から救急医療の充実が必要であると認識しておるところであります。

まず、救急医療についてであります。1つ目に夜間における急病については、現在西諸管内で対応できない場合は、都城夜間急病センターへの搬送、利用が可能になってきているような状況であります。

また、長年懸案でありましたが、予算として令和7年度から、初期救急医療対策費ということで、小林市から1400万円の負担金を計上して使えるようになってきているという

のが1つですので、夜間の場合はそれで対応できるというのではないかなと思っております。

それと2つ目であります。これは産婦人科に限ってではありませんが、昼間ですね、西諸管内において重大な事故とか怪我とか、発病した場合は、西諸も含めて医師の判断により、県のドクターヘリが活用できます。宮崎市の医療機関、宮崎・都城含めて、各種医療機関への連携をしながら搬送するという取組、仕組みができ上がっているということで、これにおいてもあり、市民の命、生命を守る取組と言えるのではないかなと思っております。今後におきましても、地域医療の充実というのはこれは市民の望む要求・要望、いろいろありますので、そういうことを取り組みながら、さらなる充実に発揮へ向けて取り組みたいと考えているところであります。

以上であります。

チーム ノーズ 答弁ありがとうございます。産婦人科の常勤医師がいないということでしたが、そのことについて、なぜ常勤医師を増やすことができないのかを詳しく聞きたいと思えます。

お願いします。

湯舟広翔議長 答弁調整のため、しばらく休憩します。

～休憩～

湯舟広翔議長 休憩前に引き続き会議を開きます。答弁からお願いします。

押領司剛議員 現在、全国的に医師不足が生じております。小林市で出産するには複数人の産婦人科医が必要になります。

さらに、小児科医、麻酔科医など医師を確保しないといけません。現在、宮崎大学、国、県などとも協議を行っていますが、なかなか厳しい状況があります。

私たち小林市議会でも、現在、国、県、大

学などと連携をとり、引き続き要望しておりますので、引き続き、これからも要望していきたいと思ひます。

チーム ノーズ 今日はいろいろなご答弁をありがとうございます。最初は、自分の自分たちの内容が通るか不安でしたが、しっかり自分たちの意思を発表できてよかったと思ひます。この経験を今後にかして、輝かしい自分たちの未来を楽しみにしたいと思ひます。

ありがとうございます。

湯舟広翔議長 以上で、チームノーズの一般質問を終わります。

次に、小林西高等学校チームフラワー、中原亜莉寿議員、上原果歩議員、本日は欠席です。藤田杏珠議員の発言を許します。

チーム フラワー 皆さん、こんにちは。フラワーチームからダンスバトルの開催について質問させていただきます。

ダンスバトル、フェスとは、各地区から小林市に集まってエイサーなどの伝統芸能や、ヒップホップ、ジャズダンスなどの従来のダンスバトルにとらわれない、多種多様なダンスバトルです。小林市内の高校で、それぞれの高校から数名ずつ集め、集まった生徒でこのイベントの企画を計画したいと考えています。

また、夜にしてしまうと幼い子供や年配の方、寮生活をしている人たちが参加しにくくなると思ひするため、お昼ごろの明るい時間に開催したいと思ひています。開催地は小林駅か、新しく建てられる体育館などを利用するのが良いと考えます。舞台付近に屋台などを並べて、観客は食べながら楽しめるようにしたいです。

私が住んでいる沖縄では、はごろも祭りや道ジュネーという祭りなど、他にもいろんなイベントがあります。これらのイベントは屋台がたくさん並んでいて、真ん中でエイサーをしていたり、三線などをしていたりとても

賑やかです。フィナーレでは何発もの花火を打ち上げ、2日間で15万人の方がこられています。小林市もこのぐらいの規模で祭りを開催できたらと思ひます。このイベントで最終的には多くの方に知ってもらい、全国からもこのダンスバトルに参加していただけるようになると、小林市がより活気のある場所になり、小林市のいいところをもっと知ってもらえると思ひます。

ぜひ市での実施を検討してもらいたいです。

吉藤洋子議員 フラワーチームのご質問にお答えいたします。大変夢のあるご質問をいただきありがとうございます。

高校生自身が学生が楽しめるイベントが少ない、または、高校生活最後に思い出づくりしたいなど感じられ、高校生自らが企画運営するイベントは、教育的なものから、交流を目的にしたものまで全国的にも事例がございます。広報あさぎり4月号の掲載事例を参考にご紹介いたしますと、お隣の熊本県人吉球磨地域では、5つの高校で行われていた文化祭を統合し、学校間の繋がりを深めることを目的とした大規模イベントを高校生合同企画人吉球磨大文化祭として企画運営されています。本市で秋に開催となりますと、昨秋の事例で生駒高原コスモス祭り、出の山名水まつりNAORAI、のじりこびあ餃子フェス、細野納涼夏まつり、駅前でのシルバーフェスタなどがあり、出演者や観客が分散することも想定されます。

また、本市最大の祭りであります。秋まつりの来場者は4万人でありまして、はごろも祭りの15万人と比較いたしましても人口並びに来場客数ともに、数倍の違いがあります。同規模となりますと、飲食、宿泊、交通、観光のさらなる整備が必要であり、イベント開催時の交通規制や、警備の問題も考えられます。ご提案の駅前での収容面積には限界がありますので、来月に完成予定の健幸のまちづくり拠点施設や、小林市総合運動公園全体を

活用するなど検討が必要と考えております。

実際、大規模イベントとなりますと多額の費用が必要となりますが、小林市内の高校生の有志で組織される絆を結ぶ物語実行委員会では、今までも様々なイベント実績がありますので、小林の人と町が輝く！元気と笑顔発信事業の活用や、高校生の活動を応援してもらえるような、クラウドファンディングなど多種多様な対応によりダンスイベント開催について検討いただければと思っております。

先般、私も会派の皆様と沖縄県へ研修視察に行つて参りました。沖縄の活気やエネルギーを肌で感じてきたところでございます。このダンスバトルの開催により、全国の方々が、本市の良いところをさらに知っていただき、小林の情報を発信してもらえることで、交流人口の増加や活性化に繋がると嬉しく思っております。

大変貴重なご質問ありがとうございます。
チーム フラワー 答弁ありがとうございます。

答弁の中で費用について出たと思いますが、小林市の秋まつりなどの費用はどれぐらいなのかを教えてください。

金松勲議員 小林市の祭りの歳費に関する、2つの事業の補助金についてお答えいたします。まず1つですが、こばやし秋まつり。これは昨年の11月23日、10時半から16時半まで小林中心街を歩行者天国にして、内容としましては、パレード、総踊り、ステージイベントなど、小林市最大の祭りで行いました。参加者数も約50の団体、そして、4万人以上の参加者でございました。さっき質問ございましたように補助金でございますが、コミュニティ助成事業等の補助金がありますが、本市としましての補助金ですが、約300万円、それと、協賛金が200万円、合わせますと、事業費としまして500万円を、使用しております。

それからもう1つですが、今度は小林市の

冬まつり。これは令和7年11月23日から令和8年1月16日まで開催しております。JR小林駅周辺を主に、約35万球のイルミネーションが18時から21時まで点灯いたしました。そういった補助金としましては、地域活性にぎわい創出事業などたくさんございますけれども、本市としましては約60万円、協賛金が20万円。合わせて80万円。この金額的には妥当かわかりませんが、今後も事業費の拡大を検討して参ります。

以上では、答弁を終わります。

チーム フラワー 今回は貴重な答弁や、このような機会をいただきありがとうございます。

今回の答弁を聞き、高校生でも資金集めができる方法があることを知りました。これまで資金集めは大人が行うものという印象がありましたが、募金活動やボランティアを通して、高校生自身でも行えることがわかりました。そのため、ダンスバトルの開催に向けて地域の清掃活動などのボランティアを行い、資金集めにつなげることができるのではないかと考えました。そうした取り組みを通して、地域との関わりを深めることにも繋がると思いました。

今回はありがとうございます。

湯舟広翔議長 以上で、チームフラワーの一般質問を終わります。

ここで10分程度休憩します。

午前10時30分 休憩

～議長交代～

午前10時40分 再開

吉菌雄介議長 休憩前に引き続き会議を開きます。ここからは私、小林高等学校、吉菌雄介が議長を務めます。よろしくお願ひします。

ここで、先ほどの金松議員の発言について訂正の申し出がありますので許可します。

金松勲議員 先ほどのチームフラワーの答弁の中で予算の拡大と申しましたが、市議会としては予算については執行権がありませんので、十分議会として協議し、当局に提案して参ります。

以上です。

吉菌雄介議長 ただいまの訂正発言の通り、ご了承願います。

次に、小林秀峰高等学校、チームコーヒーゼリー、湯舟広翔議員、榎窪千紘議員、戸高庵湊議員の発言を許します。

チーム コーヒーゼリー 私たちのチームからの質問です。

私たちのチームからは、小林市の空き家や空き店舗をどのように活用していくかについての質問です。

私たちが考えた案は、空き家や空き店舗を利用して、子供たちが自由に遊べるスペースや、大人の人たちが勉強や仕事をできるスペースを作っていければいいと考えました。

考えた理由としては、現在小林市にはTENAMUやTENOSSEという施設がありますが、どちらも駅の周辺に設立されており、また、そこに入る人数が限られていて、なかなか利用できる人が少ないと感じました。このような施設がいくつかできれば、また他の地域にも設立されたら、もっと利用しやすくなるのではないかと思います。そのような施設を空き家や空き店舗を利用して作っていけば、高齢者の人たちにとってより過ごしやすくなると思います。私たちは、空き家を少しでも減らせるような活動をしていきたいと考えています。

また、小林には空き家を利用した老人施設がいくつかありますが、まだまだ高齢者の数に対して足りていないように感じます。なので、小林市議会議員の皆さんにも、少しでもいいので私たちの意見に賛成していただきたいと思いました。

以上です。

前田隆博議員 小林秀峰高校、チームコーヒーゼリーの質問にお答えします。

空き家や空き店舗の活用について、しっかりした考え、提案をいただき本当にありがとうございます。皆さんが考えていただいた、子供が自由に遊べる場所。大人が勉強や仕事をできる場所。そして高齢者が安心して過ごせる施設を空き家や空き店舗を活用して作っていきたいという意見は、これからの小林にとってとても大切な視点だと受けとめています。

現在小林市には、学習や交流の場として活用できる施設としてTENAMUビル（小林市中心市街地交流施設）、KITTO小林（小林市にぎわい創出拠点施設）、TENOSSE（小林市コワーキングスペース・創業支援施設）といった施設があります。

TENAMUビルは、市民が自由に集い学習や交流を行うことができる、市民交流スペースとして整備されており、無料で利用できるスペースや、Wi-Fi環境も整っています。

また、昨年8月から豊かな学び支援室が新たに整備され、午後から学習スペースとして利用可能となっています。

KITTO小林は、学生や社会人が勉強や仕事、打ち合わせなどに利用できる学習交流のための多目的な施設として、まちのにぎわいを生み出す拠点となっています。

また、TENOSSEは企業や新しい仕事に挑戦する人を支援するコワーキングスペースや、創業支援の機能を持った施設です。

ただし、皆さんが感じているように、これらの施設は、中心市街地、特に駅周辺に集まっていることや、利用できる人数や時間に限りがあることから、使いたくても使えない、もっと身近に身近な場所にして欲しい、といった声があることも事実です。

また、小林市には多くの空き家があり、その中には使い方次第で地域の中に新たな居場所や交流の場を生み出せる可能性を持った建

物もあります。

一方で、空き家を活用するためには、建物の安全性や修理にかかる費用、誰が管理や運営を行うのか、事故が起きたときの責任をどうするかなど、いくつかの課題があることも正直なところではあります。

しかし、だからといって難しい、できないで終わらせるのではなく、どうすれば実現できるのかを考えていくことが、私たち大人や市議会の役割だと考えています。

皆さんの提案は、空き家を問題としてではなく、町の資源としてとらえている点がとても素晴らしいと思います。市議会としても、既存の施設の活用状況を踏まえながら、他の自治体の取組も参考にし、市民の皆さんや若い世代と一緒にできることから検討していきたいと考えております。皆さんが普段こういう目で空き家や空き店舗を見ていることにごく感心しました。

私からは以上です。

チーム コーヒーゼリー 空き家を活用するためには、安全性、費用、管理運営、事故が起きたときの責任など、いくつかの課題が挙げられています。これら複数の課題のうち、小林市としてまず最初に解決すべきと考えている最優先の課題とは何ですか。

以上です。

大迫みどり議員 チームコーヒーゼリーの質問にお答えをいたします。

空き家を活用するためには、確かに安全性や費用、運営体制など解決すべきハードルがいくつかあります。その中で、小林市としてまず最初に解決すべき最優先の課題は、建物の安全性の確保だと考えます。子供たちが遊んだり、高齢者の方が過ごしたりする場所にするためには、何よりも安全でなければなりません。古い建物が地震に耐えられるか、火災のリスクはないかといった耐震・防火のチェックを最初に行うことがすべての活用の大前提となります。

そのためには、市による空き家調査をさらに充実させ、どの物件が安全に使えるのかを正確に把握する必要があります。

これらを実現するためには、行政だけでなく、建築の専門家や実際にその場所を運営する市民の皆さんの知恵を合わせることが不可欠です。

皆さんの空き家を減らしたい、もっと身近な場所に交流の場を、という強い思いを形にするために、まずはこれら土台となる課題から1つずつクリアしていくように議会として行政に働きかけていきます。

以上です。

吉菌雄介議長 この際、しばらく休憩します。

～休憩～

吉菌雄介議長 休憩前に引き続き会議を開きます。チームコーヒーゼリーをお願いします。

チーム コーヒーゼリー 先ほど、調査を行うとおっしゃっていましたが、具体的にどのような調査を行っていくのでしょうか。

お願いします。

吉菌雄介議長 答弁調整のため、しばらく休憩します。

～休憩～

吉菌雄介議長 休憩前に引き続き会議を開きます。答弁からお願いします。

大迫みどり議員 やはり建物の耐震性を調査することだと思っております。あとはそこを使う方たちの安全性は使う方たちが考え、市としては、耐震性があるかどうかというのをきちっと把握して、それを許可していくことになると思います。

以上です。

チーム コーヒーゼリー 耐震性はどのように調査されるのでしょうか。

能勢誠議員 専門家による調査をかけるので

すけれども、どのようにというのが、今手元に資料がないので、また後ほど資料で提出したいと思います。

チーム コーヒーゼリー 本日は貴重なご答弁、そして機会をありがとうございました。私たちのこの提案が小林市の発展に役立つことを願っています。

初めは、私たちの提案が小林にとって役に立つのかというのがとても不安でしたが、議員さんたちの、真剣な議論と答弁で少し自信がつかしました。

改めて、本日はありがとうございました。

吉菌雄介議長 以上で、チームコーヒーゼリーの一般質問は終わります。

次に、小林秀峰高等学校、小林高等学校合同チーム、チームこぼやしっ娘、八重尾彩織美議員、上田愛海議員、國本綾音議員、上田彩絢議員の発言を許します。

チーム こぼやしっ娘 皆様、こんにちは。私たちは、チーム名こぼやしっ娘の秀峰高校2年、八重尾彩織美、上田愛海、國本綾音、小林高校2年、上田彩絢です。よろしく願いいたします。

私は、沖縄の伝統芸能であるエイサーをしています。小学1年生から始めて、県内の様々なイベントに出させていただきました。いろんな場所で演舞をする中で、自分も笑顔にできるし、見てくださっているお客さんや、一緒に会場を盛り上げている仲間、他の団体さんたちも笑顔にできるって本当にすごいことだと思います。やはり踊るといのは、人々を幸せにすることのためにあると思っています。私はこれからもエイサーを通じて、いろんな人たちと繋がっていきたいです。

ですが近年では、伝統芸能に触れる人が少なくなっているみたいです。実際に私が所属している野尻エイサー隊東風でも、昔は子供の数が15人程度いたのですが、今では半分ほどしかいません。同時に、伝統芸能を支援してくださっている、保存会の方々も、

年々減少している傾向にあります。なぜこのような状態になってしまったのでしょうか。

それでは通告に基づき質問して参ります。まず初めに地元の伝統を継承していくことについてです。この問題を解決していくためには、まず子供たちに、伝統芸能と触れる機会を作っておくことだと思います。

先月、野尻小学校の3、4年生の子たちが学校行事の一環としてエイサーを踊っていました。みんなとても楽しそうで、元気溢れる演舞を披露してくれたと思います。このような機会をもっと広げていけたらいいです。

先ほども言いましたが、やはり私たちは1人でも多くの人たちに、伝統芸能を知ってもらい、笑顔になっていただきたいと思っています。私たちは社会がそのようになるための支援を続けていきたいです。

こうした取り組みを支援する制度や予算を検討していただけないか伺います。

後の質問は質問席からさせていただきます。

以上で壇上からの質問は終わります。

有木将吾議員 ご質問ありがとうございます。まず、地域の伝統芸能や方言を次世代へ繋ぎたいという皆様の思いに、私ども市議会一同も深く共感します。私たちも、そして子供の小学生時代にPTAとして、保存会、地域の皆様が連携して、児童が伝統芸能に触れる機会を作っていただきました。現在、保存会としては、10団体2団体が、指導者の高齢化等の理由で休止されているとお伺いしています。

それ以外に、郷土芸能フェスティバルを3年に1回開催し、PTA研究大会等でも継続的に発表に取り組んでいます。ご指摘のとおり指導できる方が高齢化するなどの課題があります。郷土芸能保存会連合会という体制は整備されていますが、さらなる継承の体制づくりが必要であると思います。保存会の方々の困りごと、指導者不足とか、衣装の劣化などをヒアリングした上で、具体的な予算

措置、施策を講じる必要があると思われま。文化財愛護少年団事業費補助を、令和6年度は22万8,000円出しています。事業費の使い道は、衣料や道具の修繕費と、出演費に使われています。主な団体は、文化財愛護少年団です。

郷土芸能の継承活動については、まず地元の人々の思いや取り組みがあって運営されるものと思いますが、ご提案いただいた学校の授業や、地域行事での体験機会を増やしたいという思いを受け止め、当局に対し前向きな検討をして参りたいと思います。

以上で答弁を終わります。

チーム こばやしっ娘 ご答弁ありがとうございます。ご答弁いただいた内容からすると、指導者の高齢化が課題ということでしたが、私たち高校生の若い世代がボランティアとして関われる仕組みを作ることは考えられないのでしょうか。

貴嶋憲太郎議員 チームこばやしっ娘のご質問にお答えします。

たくさんの方を笑顔にするということは、自分も含め周りの人たちを元気にすることだと思います。若い世代からボランティアに関わることは、これからの持続可能な地域づくりのために、大変すばらしい考えだと思います。伝統芸能を持続させるためのボランティア活動についてですが、先ほどの答弁でもありましたけれども、郷土芸能のフェスティバル、そういったものの鑑賞を通じて、それぞれの地域に残されている伝統文化にどういう方々が携わっているか、どのような芸能なのかを調べることもよいかと思います。それを調べるには、それぞれの地域の方々や、社会教育課に尋ねられてもよいかと思います。伝統芸能にボランティアで仲間と関わる仕組みづくりについては、これから一緒に考えていけたらと思っております。

以上です。

チーム こばやしっ娘 答弁ありがとうございます。

ございます。

小林秀峰高校2年福祉課の國本綾音です。

私は今、福祉科で学んでいます。福祉科では、普段の授業に加え、施設実習やサロン活動、福祉の魅力発信を行っています。特に、施設実習やサロン活動では、地域の方と関わることで地域の繋がりを大切にしています。その中で1つ課題がありました。それは方言がわからないということです。私たちは普段西諸弁を使わないので、西諸弁が分からない人がたくさんいました。そのため、授業の中で西諸弁講座を行いました。実際に講師の方に来ていただき、西諸弁を学びました。そのような活動を通して、私はもっと方言に触れる機会を増やしたらいいと思いました。方言は地域に残る大切な言語なので、次世代に伝えるためにも方言に関するイベントなどを実施できたらいいと思います。

また、インターネットやSNSもうまく活用し、多くの人に西諸弁の良さを知ってもらいたいと思います。

いかがでしょうか。

松嶺勇一議員 國本綾音議員の質問にお答えいたします。

福祉を学び、それを通して地域の関わり合いを持ち、そこで地域の課題を見いだすことはとてもすばらしい学校の取り組みで、また、生徒の皆さんの気づきだと思います。言葉とは、人に気持ちを伝える上で必要なコミュニケーションツールであると考えます。福祉を学ぶものとして、相手に寄り添いたいという強い思いも伝わってきました。方言もまた、それぞれの地域で生まれた伝統的なコミュニケーションツールであり、その地域で親しまれております。地域の歴史そのものであります。人と人をつなぐ温かさもあります。近年では、情報通信が発達し、標準語が全国に広がり、それぞれの地域でその方言のあり方が変わりつつあります。

ご存じかと思いますが、本市では、10年

ほど前の2015年に、移住促進PRムービー「ンダモシタン小林」を全国に発信しました。当時は全国的に小林市が評判になったところでもあります。同時に、秀峰高校生ともPR動画を制作しております。

高校生の皆さんが地域文化に興味を持ち、その継承に関わり合おうとしていることは、市にとって非常に心強いと思います。西諸弁を後世に伝え、残すことはどのような施策が必要なのか、あらゆる手段を駆使しながら一緒に小林の魅力を守り、次の世代につないでいけるよう取り組んでいきたいと思っています。優しい心で目配り、気配り、心配りができる皆さんがこの小林で福祉に携わっていただけたことが何よりありがたいことです。

以上で答弁といたします。

チーム こぼやしっ娘 この度はこのような場を設けていただき、ありがとうございました。初めてのことばかりで難しいこともありましたが、高校生議会に参加することができて本当によかったなと思っています。

小林秀峰高校では、3年生で課題研究があります。商業マネジメント課では、地域や宮崎県全体の課題や魅力についてまとめ、発表します。そのときには、今回の経験を十分に生かし、堂々とした発表をしたいと思っています。

そして、もし今回提案したことが実施されるのであれば、私たち高校生を活用していただきたいと思います。

改めまして、本日はこのような貴重な体験をありがとうございました。

吉菌雄介議長 以上でチームこぼやしっ娘の一般質問は終わります。

以上で、日程第3、市政に対する一般質問は終了します。

以上で本日の日程はすべて終了しました。

これで第2回小林市議会高校生議会は閉会します。

午前11時10分閉会

～講評～

堀研二郎広報広聴委員長 皆さん、大変お疲れ様でした。

最後に、小林市議会副議長の貴嶋憲太郎議員より講評をいただきたいと思います。よろしくをお願いします

貴嶋憲太郎副議長 本日は高校生議会、大変お疲れ様でした。限られた時間ではありましたが、一般質問はいかがだったでしょうか。かなり緊張されたと思います。こちらもかなり緊張しました。この議場で年に4回定例会があります。そこで、各議員、一般質問や議案質疑を行います。その時もそれぞれの議員は、かなり緊張して質問をされています。もちろん当局、市長をはじめ市の職員の方々も、緊張感を持って取り組んでいます。そういった緊張感を皆さんが体感して、少しでも私たちの気持ちに寄り添っていただけたらと思います。ありがとうございました。

地域の身近な課題を真剣に考え、自分の言葉で意見を述べて、他者の意見を聞く姿勢は非常に大切なことだと思います。皆さんは貴重な体験をされました。はっきりと声も出て、堂々とされていたと思います。小林市を良くしたい気持ちは地域住民、みんな一緒であります。今日の体験をこれからの学校生活や将来の進路、そして社会との関わりの中で生かしていただけると、主催者側も計画した甲斐があったと思います。

本日の学びが皆様にとって、あらゆる活動の糧になるよう、心より祈念いたしまして、簡単ではございますが講評といたします。

本日は本当にありがとうございました。

堀研二郎広報広聴委員長 ありがとうございました。本日は以上になります。

本当に私もいい経験になりました。新しい視点と、新しい価値観に触れて、私も担当は小林高校でしたが、改めて質問の内容の調査に行き、本当にいい機会となりました。

この後、アンケートに記入していただき、
写真撮影等ございますのでよろしくお願い
いたします。

また、傍聴者の皆様におかれましても、ア
ンケートの記入にご協力お願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

午前11時15分 終了